

平和学習



戦争遺構が残るこの島で歴史を学び、平和について考えるきっかけに。

似島には、戦争にまつわる遺構が数多く点在しています。日清戦争の終戦直後の1895年(明治28年)には、現在の似島学園の位置に第一検疫所を、日露戦争中の1905年(明治38年)には現似島臨海少年自然の家の位置に第二検疫所を、第二次世界大戦中の1940年(昭和15年)には馬匹検疫所が建設されました。検疫所は、戦地から帰還した兵士に対して伝染病の検疫・消毒を行う施設で、終戦まで検疫の仕事は続けられましたが、1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分に世界で初めて広島に原爆が投下されて以降は、多くの被災者が運び込まれ、負傷者のための臨時野戦病院となりました。原爆投下直後から20日間に約1万人の負傷者が運び込まれ、そのほとんどの被災者は亡くなり、火葬が間に合わなかったことから、その多くは土中に埋葬されました。1947年(昭和22年)の発掘では1,500体が発掘され、以来4回の発掘で2,602体、遺灰100人分、数多くの遺品や遺骨が大量に発掘されました。日本が戦争をしていたこと、広島・長崎に原爆が投下されたこと等、当時の様子を実際に知っている人は年々少なくなりつつあります。

ボランティアガイドと似島を巡り、歴史を学び、平和について考えてみましょう。



山頂から撮影した瀬戸内の多島美など美しい景色をパノラマ映像でお楽しみいただけます！



安芸小富士 山頂景色
<https://youtu.be/7Sic9EbikNE>



下高山 山頂景色
https://youtu.be/tnbTwo1R_K8

左記のコードを読み取ろう！



1 第一検疫所焼却炉煙突

明治28年建造。検疫所の汚物を焼却した赤レンガ煙突。火葬場は別場所に存在していました。



2 第一検疫所棧橋跡

日露戦争時に戦地から帰還する兵士等の検疫・消毒を行うため、未消毒の兵士を上陸させた棧橋と、無事に検疫を終えた兵士等が帰途につくために乗船する船の消毒棧橋跡。



3 第一検疫所(現似島学園)

明治28年6月1日開設。第一検疫所の建設は、地元住民の土地を強制買収し、通常なら3年かかると言われた工事を、地元の人々を「徴用」でかり出し、不眠不休の作業により、わずか2ヶ月で完成させました。



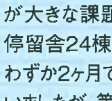
4 後藤新平像

安政4年(1857年)、岩手県水沢市生まれ。似島第一検疫所創設のために尽力した人物です。この像は昭和10年代に製造されました。日清戦争の終結が近づくにつれ、帰還兵が戦地でコレラ等の難病感染を水際で食い止める「国際戦争における防疫」が大きな課題となりました。民有林・原野19,919坪を買収し、消毒部14棟・停留舎24棟・避難病院16棟・事務所棟・倉庫・炊事場・火葬場・汚物焼却場をわずか2ヶ月で建設しました。学園内にあるブロンズ像は、別の場所に建立されていましたが、第二次世界大戦中に国の指導下により実施された「金属類回収令」による難を逃れるため防空壕内に3つに分割して保管し、難を逃れることができました。平成4年4月、ゆかりの地である、学園内の敷地に移設・建立されました。



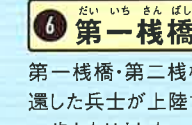
5 第二検疫所(現平和養老館)

第二検疫所跡地の一角に建てられた養護老人ホーム「広島平和養老館」。戦後、原爆で家族や親戚を失って、一人になった老人の施設として建設されました。被爆日から「似島臨時野戦病院」を開設し、途切れなく運ばれてくる被爆者の診療看護を中心に行われていました。建物の前庭に、原爆被爆者の慰霊碑が建立されていますが、碑の中には遺品と新聞記事がタイムカプセルに入れて埋蔵されています。



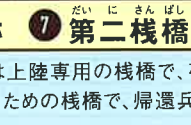
6 第一棧橋跡

第一棧橋・第二棧橋は上陸専用の棧橋で、荷物の荷揚げや大陸から帰還した兵士が上陸するための棧橋で、帰還兵にとっては本土への最初の一步となりました。



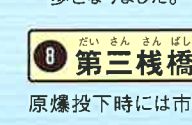
7 第二棧橋跡

第一棧橋・第二棧橋は上陸専用の棧橋で、荷物の荷揚げや大陸から帰還した兵士が上陸するための棧橋で、帰還兵にとっては本土への最初の一步となりました。



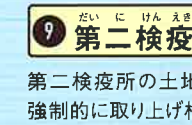
8 第三棧橋跡

原爆投下時には市中から搬送された負傷者の多くを上陸させた棧橋です。



9 第二検疫所(現似島臨海少年自然の家)

第二検疫所の土地は、島の人々の食料を補給する畑でした。軍は半ば強制的に取り上げ検疫所が建てられました。戦地から帰還する何十万人の兵士が国内へコレラを主とする伝染病を持ち込まないようにするため、また、被爆当時は救護・野戦病院として大きな役割を果たしました。さらに、第一次世界大戦時の大正6年2月から大正9年4月までの間、検疫所の山側半分の区域をドイツ俘虜収容所として使用しました。



10 井戸

構内に現存する唯一の井戸は臨時野戦病院開設時に使用され、末期の水ともなりました。現在、この井戸水は平和記念式典で献水されています。



10 移設「馬匹焼却炉」

この遺構は、平成2年(1990年)9月に、似島市営住宅用地内で発掘された「旧陸軍運輸部馬匹検疫所」の焼却炉の一部を平成3年2月に移設したもので、被爆直後は応急介護の甲斐もなく亡くなった遺体をこの焼却炉で火葬しました。島民の証言をもとに発掘調査が何度も行われ、その都度、多くの人骨や遺品が掘り出されました。ここで発掘された遺骨は、平和記念公園内にある供養塔に合祀されています。



11 馬匹検疫所(現似島小・中学校)

昭和15年、軍用馬の検疫所が増設され、被爆当時、人間も火葬することになりました。平成2年8月、似島大地区の市営住宅建設用地を整備中に馬匹焼却炉の一部が発見されました。ここでも被爆犠牲者を埋葬したという証言により、9月7日から発掘作業が開始され、大量の骨片が出てきました。ほとんどが小さな骨片なので数ははっきりしませんが、1,000人近い人を火葬したと証言した人もいたそうです。発掘終了後、この遺構の一部が似島臨海少年自然の家の敷地に移設されています。



12 慰霊碑

昭和46年10月、似島中学校の農業実習地から遺骨7体、その後の調査により、517体分の遺骨と遺品が発掘されました。この慰霊碑は、昭和47年11月に原爆犠牲者の冥福を祈って建立されたものです。



13 慰霊の広場

この広場でも多くの遺体が埋められているとの証言により、発掘が行われ、85体の遺骨と時計や中学生のボタン、印鑑・朱肉、小銭入れなど、多くの遺品が発掘されました。平和学習で訪れた学校単位で記念植樹ができる場所もありますのでお問い合わせください。



14 軍用連絡トンネル

燃料貯蔵施設と特攻隊訓練用の兵舎群を結ぶトンネル。



説



この島が似島と呼ばれるようになった由来には2つの説があります。

富士山によく似ている小さな山は安芸小富士と呼ばれ、「瀬戸内海に浮かぶ富士山に似た島」、似島となった説。

江戸時代、船で運んだ荷物を積み替えるためにこの島を利用したことにより、「荷の島」と呼ばれるようになり、転じて「似島」となった説。

最初の島民について正確な文書記録がなく、住民が定住した時代は定かではありませんが、島の古老による「口伝」によると、佐伯郡白砂村十文字(現、広島市佐伯区湯来町)出身の農家三戸が移り住んだと伝えられ、家下に現存する富士田家の土蔵には○に+の字印(⊕)があったと伝えられています。(日本歴史地名大系第35巻)

i

島内の観光案内、レンタル、バウムクーヘン作り体験 ウエルカム似島



場所:似島家下27番地(似島港棧橋前)
☎050-5899-6267

レンタル料 (8:00~17:00)	自転車	500円/回・日
	釣り竿セット	1,000円/回・日
	サビキ釣りセット	1,500円/回・日

【釣りセット内容】
リール付き釣り竿/ロープ付きバケツ/魚はし/用トング/釣具ケース【ハサミ(単品)・おもり(単品)・仕掛け(単品)・疑似餌(単品)・ビニール袋】

バウムクーヘン作り体験

3,000円/90分 8:00~17:00

※要予約







13 似島平和資料館

令和3年4月、慰霊の広場内に似島平和資料館がオープンしました。館内には「軍部広島」を支えた似島の歴史に関する資料や写真、慰霊の広場で発掘された遺品等が展示されています。

お問い合わせ・お申し込み

●似島平和資料館 ☎082-259-1722

●カイドの会/宮崎 ☎082-259-2120

発行：令和3年9月